

(別紙様式3)

令和4年度あいちラーニング推進事業研究報告書【重点校】

学校番号 28

学校名 愛知県立春日井西高等学校

校長氏名 杉浦 義之

研究責任者職・氏名	教諭・村井 裕二郎	
研究テーマ	ICT機器を活用した「主体的に学習に取り組む態度」の評価に関する研究	
本年度の研究目標	(1) 各新学習指導要領の目標に基づいた評価の3観点の1つである「主体的に学習に取り組む態度」について、ICT機器を活用して評価する仕組みを検討する。 (2) ICT機器を活用した評価について、各教科・科目の特性に応じた適切な評価場面を検討する。 (3) ICT機器により記録した「主体的に学習に取り組む態度」に関する成果物を綴り、生徒の変容を定量的・定性的に分析することで、個人内評価を行うことを検討する。	
研究の実施内容		
実施月日	内 容	備 考 (対象生徒等)
令和3年度		
6月17日	○第1回あいちラーニング推進委員会	
6月28日	○尾東地区連絡協議会(1) ・尾東地区主幹校および他の重点校と情報交換	
7月1日	○第2回あいちラーニング推進委員会 ・尾東地区連絡協議会の情報共有 ・研究計画書の作成	
7月20日	○第3回あいちラーニング推進委員会 ・各教科に評価基準表の作成依頼	
9月9日	○第4回あいちラーニング推進委員会 ・評価の在り方について勉強会	
10月11日	○第5回あいちラーニング推進委員会 ・各教科が作成した評価基準表について情報共有	
12月9日	○第6回あいちラーニング推進委員会 ・各教科に評価基準表を追加作成依頼	
1月18日	○尾東地区連絡協議会(2) ・尾東地区主幹校および他の重点校と情報交換	
2月3日	○校内研究授業、校内研究協議会(数学の部)	
2月4日	○校内研究授業、校内研究協議会(国語の部)	
3月1日	○第7回あいちラーニング推進委員会 ・研究内容の共有 ・研究報告書の作成	
3月18日	○第8回あいちラーニング推進委員会 ・令和3年度の活動の振り返り	

令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度の研究成果をホームページに掲載</li> <li>・令和4年度の計画見直し</li> </ul>	
4月～	○観点別による評価活動の開始	
5月16日	○第9回あいちラーニング推進委員会	
	・令和4年度の活動方針の確認	
6月24日	○第10回あいちラーニング推進委員会	
	・観点別評価の現状と問題点の共有	
7月27日	○尾東地区連絡協議会（1）	
	・尾東地区主幹校および他の重点校と情報交換	
9月30日	○校内研究授業、校内研究協議会（英語）【別紙1】	
10月3日	○第11回あいちラーニング推進委員会	
	・前期研究授業、1学期評価方法の反省	
	・各教科に評価基準表の作成依頼	
11月22日	○第12回あいちラーニング推進委員会	
	・2学期観点別評価の現状と問題点の共有	
	・各教科が作成した評価基準表について情報共有	
1月5日	○尾東地区連絡協議会（2）	
	・尾東地区主幹校および他の重点校と情報交換	
1月24日	○校内研究授業、校内研究協議会（地歴公民、理科、保健体育、芸術） 【別紙2】	
1月31日	○第13回あいちラーニング推進委員会	
	・後期研究授業、2学期評価方法の反省	
	・活動内容の共有	
	・研究報告書の作成	
2月20日	○学校評議員会にて報告	
3月下旬	○研究成果をホームページに掲載	

研 究 成 果 の 評 価 及 び 普 及 ・ 還 元 に 関 する 実 績

- ・非常事態発生のため1月24日の研究授業の際に主管校が来校できず。主管校にはビデオ録画したものを見ていただき助言を受けた。
- ・研究授業を実施し、あらためて「主体的に学習に取り組む態度」を評価することの難しさが分かった。記録に残すためには、生徒が意図している内容等を表現させなければならず、同じく考察し表現した内容を評価する「思考・判断・表現」との区別がつきにくい。
- ・観点別評価を浸透させ、無理なく長続きさせるためには、明確な指標が必要である。研究授業後の研究協議会では、「主体的に学習に取り組む態度」の評価場面や対象とする内容に関して、様々な意見が出された。中でも「見通し（展望）」と「振り返り」において「主体的に学習に取り組む態度」を評価するという考えは、場面が限定されていて分かりやすく、有効性に期待が持てる。
- ・具体的には、単元を展望させる場面で「なぜ」と問いを立て、追究課題として表現させることが考えられる。単元の冒頭で見通しを立て、課題を設定して新たな学びのステージに向かうという意味において、「問いを表現する」活動は、「主体的に学習に取り組む態度」の評価対象になり得る。
- ・「振り返り」の場面では、自らの思考の過程等を客観的に捉える力、つまり「メタ認知」に関わる部分を「主体的に学習に取り組む態度」として評価することが可能である。
- ・「主体的に学習に取り組む態度」の評価に際しては、自分を客観視し、他者との比較から差異や共通点に気付かせ、学びに向かうための視点を与えることが大切である。
- ・今後はマネジメントシートを作成後、評価基準表と合わせて職員に共有する予定である。
- ・年度末には研究報告書をホームページに掲載予定である。